

登録番号 第 22865 号

## ベアス®フロアブル

- 特長：
- 移植前または移植直後から使用できる初期除草剤です。
  - ノビエをはじめとする一年生雑草に高い効果を示します。
  - 低コスト稲作に貢献する経済的な1成分剤です。
  - 田植同時処理も可能です。

有効成分	ペントキサゾン（化管法第1種）・・・2.9%	包装	500ml×20
性状	類白色水和性粘稠懸濁液体	有効年限	4年
毒性	普通物*	危険物	-

※普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

## 【適用雑草の範囲及び使用方法】

2012年08月08日付内容

作物名	適用雑草名	使用時期	適用土壌	使用量	本剤の使用回数	使用方法	適用地帯	ペントキサゾンを含む農薬の総使用回数
移植水稻	水田一年生雑草 マツバイ	移植時	砂壤土 ～埴土	500 mL/10a	2回以内	田植同時散布機で施用	全域の普通 期及び早期 栽培地帯	2回以内
		植代後～移植前 7日または 移植直後～ ルビエ発生始期 ただし、 移植後30日まで				原液湛水散布又は水口 施用		
ひえ(水田移植栽培)	水田一年生雑草 マツバイ	植代後～移植前 7日または 移植直後～ ルビエ発生始期 ただし、 移植後30日まで	砂壤土 ～埴土	500 mL/10a	2回以内	原液湛水散布	全域	2回以内
いぐさ	水田一年生雑草	植付後～生育期 (雑草発生前)	砂壤土 ～埴土	500 mL/10a	2回以内	原液湛水散布	近畿・中国・ 四国、九州	2回以内

## 使用上の注意事項

- (1) 使用量に合わせ秤量し、使いきることを。
- (2) 使用直前に容器をよく振ること。
- (3) 本剤は雑草の発生前から発生始期に有効なので時期を失しないように散布すること。特に、移植後5日以降に使用する場合は適用雑草の葉齢等をよく確認すること。
- (4) 苗の植え付けが均一になるように、整地、代かきは丁寧に、ワラくずなどの浮遊物はできるだけ取り除くこと。また、未熟有機物を施用した場合は特に丁寧にすること。
- (5) 散布に当たっては、水の出入りを止めて湛水状態のまま本剤を水田全面にゆきわたるように散布し、少なくとも3～4日間は通常の湛水状態（水深3～5cm程度）を保ち、田面を露出させたり、水を切らしたりしないよう注意し、また、散布後7日間は落水、かけ流しはしないこと。

- (6) 水口施用の場合は入水時に本剤を水口に施用し、流入水とともに水田全面に拡散させること。処理後田面水が通常の湛水状態（湛水深3～5cm）に達した時に必ず水を止め、田面水があふれ出ないように注意すること。
- (7) 苗が水没するような深水状態では、葉鞘部に軽い褐変症状が出るおそれがあるので、水管理に注意すること。
- (8) 以下の条件下では初期生育の抑制を生ずるおそれがあるので使用を避けること。
  - 1) 砂質土壌の水田および漏水田（減水深2cm/日以上）
  - 2) 軟弱苗を移植した水田
  - 3) 極端な浅植の水田および浮き苗の多い水田
- (9) れんこん、くわい、せりなどの生育を阻害するおそれがあるので、これらの作物の生育期に隣接田で使用する場合は十分注意すること。
- (10) いぐさに使用する場合は既発生の雑草に対して効果が劣るので、雑草の発生前に時期を失しないように散布すること。また、本剤の1回散布のみでは十分な効果を得られない場合があるので、いぐさに適用のある薬剤との体系で使用する。ただし、原液がいぐさ茎に付着すると褐変症状を生じることがあるので収穫後発生後は散布しないこと。
- (11) 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合や異常気象時は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

#### 人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法-----

- (1) 使用の際は農薬用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用すること。作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをするとともに衣服を交換すること。
- (2) 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯すること。
- (3) かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意すること。

#### 水産動植物に有毒な農薬については、その旨-----

- (1) 水産動植物（藻類）に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。
- (2) 散布後は水管理に注意すること。
- (3) 散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空容器等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

#### 引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨-----

通常の使用方法ではその該当がない。

#### 貯蔵上の注意事項-----

直射日光をさけ、なるべく低温な場所に密栓して保管すること。